

市長記者会見記録（案）

日時：2019年4月16日（火）14時00分～14時34分

場所：第3庁舎18階 講堂

議題：市政一般

<内容>

《統一地方選挙について①》

【司会】 ただいまより市長記者会見を始めます。本日の議題は市政一般となっております。早速、質疑に入らせていただきますが、進行につきましては、幹事社様、よろしく願いいたします。

【幹事社】 7日に、統一地方選の川崎市議選が終わりまして、市議では女性の当選者が全体の4分の1に増えて過去最多になったということで、占有率も一番増えているということなんですけれども、市では課長級の女性の占める割合を21年度に30%にするという目標を掲げていますけれども、女性の議員が今回これだけ当選された、増えたというのを市長はどのように受けとめていらっしゃいますか。

【市長】 どういう属性とか、政党が当選されたことについて云々は避けたいと思うんですが、（女性）候補者自体がやはり増えているのではないかなという印象を受けました。そういう意味では、政治の世界は非常に女性進出が遅れている部分があるので、（女性）候補者自体が増えているというのは大変いい傾向ではないかと個人的には思っています。

【幹事社】 相模原市長選で本村さんが当選されて、前の会見でも非常に親しい間柄だと言っていたんですけど、当選後にやりとりなんかは具体的にされたのでしょうか。

【市長】 結構してますね。

【幹事社】 そうですか。どのようなやりとり、何か政策的なこととか。

【市長】 やはり、私の6年前の最初の（当選）時に、どうだったみたいな話はしていますけれども、あまり具体的なことは避けたいですね。

《待機児童対策について》

【幹事社】 ちょっとまだ先になるかもしれないんですけども、選挙中に、人口が増えているということで、待機児童の問題も取り上げている方が非常に多かったと思

うんですけれども、今春の川崎市の待機児童の現状と今後の見通し、これから多分、発表があると思うんですけれども、現時点でのご認識を少しお聞かせください。

【市長】 やはり、実際に（保育所等を）利用される方がずっと伸び続けていますし、申請率も非常に増えている。確か平成25年の当選当時、まだ申請率は25%位だったのが、今回は、恐らく40%は超えてくると思います。ですから、申請率自体が非常に増えているということは、まだまだ（利用者が）増えるでしょうし、そういった意味では、引き続き枠の確保と、それから保育の質の両方を確保していかなければいけないという、非常にハードルがどんどん、どんどん高くなっているというのを実感しますが、市政にとって最重要課題の1つだとずっと言ってきましたので、引き続きやっていきたいと思っています。

【幹事社】 私はとりあえず。

《（仮称）差別のない人権尊重のまちづくり条例関連について》

【幹事社】 今年度中に差別のないまちづくり条例の成立を目指されるということですから、今、差し当たってどういったことをされているかと、今後の見通しやビジョンがあれば教えていただければと思います。

【市長】 そうですね。6月の議会でも一定のことがお示しできるような準備を今やっている最中なので、それに向けて作業をやっているという感じですかね。

【幹事社】 改めてなんですけれども、そういった作業の中で、どういった条例になってほしいとか、どういった課題が見えてきたなどの点がありましたら、教えていただければと思います。

【市長】 課題自体にあまり変わりはないと思いますので、細部を詰めているというふうにさせていただきたいと思います。

【幹事社】 ありがとうございます。

【幹事社】 すいません。各社さん、もしありましたら。

《統一地方選挙について②》

【記者】 よろしくお願ひします。先ほどの本村さんの件なんですけど、個人的な友情でいろいろお話ししていると思うので、公務に重ならない部分も多々あるかと思うんですけど、市長が、6年前の話とおっしゃったので、やはり大統領制たる首長として行政体のトップに入る時の心構えやポイントみたいのをお伝えしているというような捉え方をしてよろしいんでしょうか。それとも全然そんな話はしてないんでしょうか。

【市長】 いや、いろいろなこと、諸々の話をしています。非常に対話を重視されているということを前面に打ち出されているので、そこは私も心掛けてきたところですから、どういうやり方をやっているかは意見交換はしていますが、諸々訴えられてこられた話を、どういうふうに行行政のほうに落とし込んでいくかを、今、準備されているところだと思いますので、そのような少し雑談じみた話が多いんですが、そういう話をしています。

【記者】 わかりました。ありがとうございます。

《川崎市の人口について》

【記者】 昨日、神戸市が4月1日現在の人口を発表しました。結果的に394人差で神戸市を超えませんでした。もう時間の問題だなという感じがします。神戸市を人口的に追い抜いて、次のターゲットというのは福岡市になる、158万。152万人台から158万と、これからどんどん人口を増やすということは、まち自体が栄えていくことになりはしますが、福岡市を超すというよりは、今後そのように人口を増やすために何が必要だと思われませんか。今、何が足りないと思われませんか。

【市長】 単純に、以前にも人口が増えているというのは、まちに活気が出てくるという意味で素直に喜びたいという話をしましたけれど、しかし、実際にこれからどんどん増やしていくということよりも、やはり年齢のピラミッドもそうですけれども、どういうふうにはバランスのとれたものにしていくかということと、それから、いつも言っている話ですけど、地域包括ケアシステムのような、ここにずっと安心して暮らし続けることができるような、そういったソフト面の取組というのが本当に持続可能な都市を作っていると思っていますので、本当にいろいろなものが関わってくると思います。福祉の話もそうですし、住宅政策もそうですし、交通インフラの話もそうですし、本当にそういう意味ではどんどん、どんどん（人口を）増やしていくということよりも、やはりバランスのいいまち作りをしていかなくてはいけないなという思いであります。さらに、福岡市も（人口が）伸びていますからね。そういう意味では、同じような感じでいくんでしょうね。

【記者】 人口をどんどん増やすというよりは、バランスのとれたまち作りということを、今は第一にお考えになっているということよろしいですね。

【市長】 はい。

【記者】 わかりました。ありがとうございます。

《統一地方選挙について③》

【記者】 今回の市議選では、地域の住民に対して不法というふうな言葉を使っておとしめて、そういう人たちを対象に出でいけというふうなことを主張する候補者、陣営がありました。あるいは外国人の生活保護に関して、デマを選挙びらに書いて、外国人の生活保護の見直し、廃止というものを主張する候補もいて、そういう意味では、選挙の場においてヘイトスピーチが行われるという、公平で公正なあるべき選挙に差別が持ち込まれるというふうな状況がありました。この件について、市長としてどういうふうにお考えになられますでしょうか。

【市長】 ちょっと私も、誰がどういうコメントをしているかというのは聞いてないものですから、直接的なコメントはちょっと控えたいと思いますし、選挙期間中での扱いというのは非常に慎重に捉えなければならないということでございますので、それぞれの関係法令の中でしっかり選挙というのをやってもらいたいなという思いはあります。

【記者】 繰り返しになりますけれども、一般論で、具体的なあれが難しいというのであればですけど、選挙の中に差別やヘイト、差別の扇動というものが持ち込まれるということ、これは公平、公正な選挙が行われるということになりますでしょうか。

【市長】 国からも通達が出ていると仄聞していますけれども、本当に選挙だからといって何もかも許されるものではないという国の通知というのは私も承知しておりますし、そういうものだろうという理解しております。

【記者】 先ほど条例の話の中で、課題は引き続きあるんだというふうなこと、お話がありましたけれども、今回の選挙におけるヘイトスピーチの問題というものも、やはり条例をつくっていく上での引き続いている課題の1つとはお考えになられますか。

【市長】 いや、ちょっと繰り返しになって恐縮ですけど、選挙期間中でどういうふうな発言でどうだというのは承知していないので、これが何かこれからの条例作りに関係するのかなというのはちょっと違うかなと思います。

【記者】 関係部局からは今のところ、まだ話は。

【市長】 そうですね。はい。思います。

【記者】 そういうのを確認する、もしそういう話があれば確認するおつもりは。

【市長】 要は、選挙期間中での発言というのは非常に慎重に取り扱われるべきものだと思いますので、むしろ私が何か選挙期間中の発言をああだ、こうだというのは非常に難しいという認識しております。

【記者】 国の見解も出ているように、一方で選挙という場で、公の場で公的な、候

補者といえども公的な立場といいますから、そういうところで発信されるものの与える影響の大きさということを考えると、よりヘイトスピーチの差別の扇動というものについては厳しく見ていかなきゃいけないのではないかなというのが私の意見、考えだし、それは多くの国際人権に関する、かかわる見識だと思うんですね。それは条約でもそういうことが。

【市長】 ですから、その選挙の話と、私たちが今進めている条例作りというのは、全く同一視される話ではないので、選挙は選挙の法律の中でとは思っていますので、そこはしっかり分けていかないといけないんじゃないかなと思います。

【記者】 しつこくて申し訳ないです。1点だけ、最後に。人権施策推進協議会の場では、その条例を作るに当たっての意見が交わされている中で、公人の発言、公人のヘイトスピーチというものをその影響の大きさを考えれば、やはりそれも厳しく見ていくような規定というものも設けていくべきじゃないかという意見があります。それについてはどういうふうにお感じになりますか。

【市長】 いろいろな項目について、今、議論しているところですので、今は差し控えております。

【記者】 わかりました。

【記者】 黒岩知事が再選をなさいました。市長は選挙前に、新しい知事に望むこととして、この場で質問を受けられた際に、これまで黒岩知事とは羽田連絡道路などのおおむね連携できていて、おおむね評価をされているということでしたけれども、一方で、県税を等しく負担しているにもかかわらず、政令市の補助率が低いなどの格差もあったりして、そこは何とか等しく恩恵が受けられるように改善を望むというような趣旨のことをおっしゃっておられました。この結果を受けて、改めて受けとめと、黒岩県政に望まれることをお伺いできればと思います。

【市長】 これまでも県と協調すべきところは協調し、要望するところは要望するという形をやってきたので、これからも黒岩知事で変更ありませんので、そういった意味では、引き続きその課題に取り組んでいくということだと思います。

それから、新しい県議会の議員の皆さんも選ばれておりますので、そういう意味では、改めて市内選出の県会議員の皆さんにも、私の立場ということと考え方というのをしっかりとお伝えして、県政の中で反映していただくように努めていきたいと思っています。

【記者】 今回は知事選挙の応援とかは特に行かれたりはされてないんですか。

【市長】 そうですね。

《障害者施設指定取り消しについて》

【記者】 了解しました。あと、すいません。もう1個、先日、障害児などを預かる放課後デイサービス事業の運営会社について指定の取り消しというのが行われたと聞いています。給付費と加算金を合わせて4,400万円ぐらいの返還を市から指示をされました。この指定を受けるまでの経緯が、女性の児童指導員がこのミライズという事業所で働いているように装ったり、実際は勤務していないにもかかわらず。あと、実際の学歴とは異なる学歴を偽造して提出するという、ちょっと悪質かなというところもありましたけれども、類似事案が実は前年度にも発生していて、正直、これは出された書類を信じるしかないというところに現状、至っていることがそもそもの問題かもしれないんですけども、まずこの件についての受けとめをお伺いできますでしょうか。

【市長】 今お話しいただいたように、今回の事件は極めて悪質です。であるのでしっかりと処分をいたしましたけれども、こういった事業というのはものすごく多くあるわけで、これまでも、例えば介護保険の事業所は4,000を超える事業所があって、いつも監査体制をどうするんだという話はこの場でも、議論はしてきたと思います。ですから、本当にある意味、性善説でやっている部分というのがあるんですが、しかし、一方でこういった不正を犯した場合には極めて厳しい処分を下すという姿勢でやってきておりますので、これからも監査というものはしっかりやっていくと同時に、もしそういうことがあれば厳しい処分が下るということは、今回の処分でも示されたと思います。ちょっとこれは、僕たちも想定しないような悪質事案だったと、この事例の詳細を聞いてびっくりしたというか、こんなことがあるのかなど。そもそも架空の人物に学歴を重ねてというような話ですから、本当に遺憾に思っております。

【記者】 了解しました。これを、お話にもありましたけど、4,000を超える事業所があって、監査するにしても、例えば一斉監査をしたり、あるいは申請のシステムを変えるとかというのは、現状ではあまり現実的ではないでしょうか。

【市長】 そうですね。ちょっと私も詳しくはあれですけども、定時の監査と随時的な監査をやっていると思うんですが、こういう大きな話があるたびに、どういう監査体制というのが一番望ましいのかは担当のところでも常に研究しているところですから、限られた人員体制でどれだけ効果的な監査を行うかというのは、これからもしっかり研究していきたいと思っております。

【記者】 今回は、どうやら保護者の方がちょっと対応がどうもよろしくないというような通報があったことがきっかけで発覚したと伺っておるんですけども、ちょっと市からこうしたことがないように、類似事案が以前にも起きているわけですから、

市からのアクションというのはやっぱり難しいのでしょうか。

【市長】 基本的には圧倒的多くの大多数の事業所はちゃんとやっていたいで、そこに監査を強めてというのもあまり意味がないかなとは思いますが。たださえ相手側も、事業所としても非常に忙しい。事務作業というのはなるべく少なくしたいと、どこの事業所も実態はそうだと思います。ゆえに、こういった事案が（発覚）するのは、ご利用者様の声だとか、あるいは内部の告発だったというのが結構多く占めるわけですが、こういったところにしっかり、今までもそうですけれども、こういった小さい声に耳を傾けていくということは大事なかなと思います。

【記者】 ありがとうございます。

【記者】 皆さんの質問に重複して、実際にあれは最初に、保護者からの施設内で暴言があるというのが最初の端緒だったと思うんですけど、通報を受けてから市が監査に入るまで、確か約7カ月位たってからだと思うんですけども、その辺、時間が空いてしまったということに対する市長の所見と、弊社の取材では、どうしてそんなに期間が空いたかという時に、やはりあまりにも事業所の数が多過ぎて、次々やっていく上で間に合わなかったとおっしゃっていて、その辺はやっぱりマンパワーの限界があったというお考えはあるかどうかというのを教えてください。

【市長】 そうですね。ちょっと詳細にどうして遅れたかというのは、今、承知してないので、改めて確認したいと思います。これもちょっと重複するかもしれませんが、どれだけの人数で監査を行うのかというのは、本当に悩ましくて、これだけ事業所があるんだから、もっと増やせばいいじゃないかというご意見がある一方で、それほど私たちもそこに割けるだけの人員を確保できないというのもありますので、そこは本当にバランスの問題だと思います。ただ、こういった不正を行うと必ずこのように厳しい処分があるんだということをしっかりと示していくことは大事なかなと思います。

【記者】 ありがとうございます。

【記者】 今の問題で、取材の中で唯一引っかけた部分がありまして、通所していた障害者の子供たち18人だったと思いますけれども、いわゆる事業所が閉鎖されることによって、その事業所運営会社が他の事業所に通所している子供たちを紹介するという事になっていた。その後については、ちょっとばたばたしたものですから、取材はしていないんですけども、いわゆる悪意を持って不正を働いていた事業所に通所していた障害者の子供たちを他の事業所に紹介させるというのは、市長としてはどうお考えでしょうか。

【市長】 一義的には、その事業所の責任で行うべきだと思います。その上でサポートする部分が行政としてあるのであれば、ちゃんとサポートしていくべきだと思いますが、一義的な責任というのはやはり事業所にあると私は思います。

《自衛官募集事務関連について》

【記者】 すいません。前回の会見でもちょっと質問して、重複になるんですけど、自衛隊への名簿の提供を川崎市が閲覧から提供に変えた理由と、市民の中には、やっぱり提供されるということに対してちょっと不安を抱いている方も一部でいらっしゃるんですね。法律等に基づいて適法に対応しているというご回答でしたけど、現時点でもそのお考えに変わりはないとか、それでよろしいかと。

【市長】 そうですね。前回お答えしたことに全く変わりはありませんし、法定受託事務の中での取扱いをさせていただいているということでもありますので、その辺はご理解をいただきたいと思います。

【記者】 閲覧から提供に変えた理由というのは何か、市の中でより事務の効率化ということなんでしょうか。

【市長】 それもありますし、総務省からの通知というものもございますし、自衛隊からの要請ということもございますし、諸々の総合的な判断ということですね。

《10連休の過ごし方について》

【記者】 わかりました。ありがとうございます。全然話は変わりますが、10連休中は、市長はご予定は。

【市長】 特にどこに行くこともないので、アルテリッカしんゆりにいくつか行こうとかなと思っております。ぜひ皆さんも、素晴らしい演目がたくさんありますので。

【記者】 よろしいでしょうか。

【司会】 よろしいですか。それでは、以上をもちまして市長会見を終了いたします。どうもありがとうございました。

(以上)

・この記録は、重複した言葉づかい、明らかな言い直しや質問項目などを整理したうえで掲載しています。

(お問い合わせ) 川崎市役所総務企画局シティプロモーション推進室報道担当

電話番号：044(200)2355